

子育てシェア®・マイコミュ利用時の事故対応



※重大事故等により支援者に賠償責任が発生する場合には限ります。擦り傷、切り傷などの日常的に起こりうる軽傷や軽微な物損は補償対象外になる場合があります。
 ※電話・メール共に、時間外・土日祝・長期休業期間は翌営業日の対応となります。

緊急連絡先のメモ

自宅

住所

電話番号 携帯電話

夜間・緊急時に行ける病院

病院名

受付時間 電話番号

かかりつけ病院

病院名

受付時間 電話番号

その他

住所

電話番号 携帯電話

まずは落ち着いて
深呼吸！



ケガ人の救護

ケガ人がいる場合は、以下の手順に従って救護してください。

- 注意** ■ケガ人に近寄る前に、周囲を見渡して安全であることを確認
 ■ケガ人が頭や首を強く打った可能性がある場合は、むやみに動かさない

救急車は
119 番



① 反応

声をかける、肩をたたく等の刺激を与えて反応を確認する。
 (身体をゆすったり、動かしたりしない)

あり

元気づけ、落ち着かせる。必要な応急手当を行う。

なし

助けを求める。119番通報、AED※1の手配を行う。

重大事故の場合は、いち早く、自分以外の大人の援助を求めましょう

② 呼吸

胸と腹部の動き(上下の動き)を見る。

あり

普段どおりの呼吸をしている場合は、気道確保を行い救急隊を待つ。
 嘔吐や吐血などがみられる場合、**回復体位**にする。 ※3/4ページ参照

なし

普段どおりの呼吸をしていない場合は直ちに心肺蘇生を行う。
 胸骨圧迫 30回 (+**小児の場合は可能であれば人工呼吸 2回※2**)を繰り返す。
 心肺蘇生はAEDを装着するまで、専門家に引き継ぐまで、またはケガ人が動き始めるまで続ける。圧迫は強く(成人は少なくとも5cm、小児は胸の厚さの約1/3)・速く(少なくとも100回/分)・絶え間なく行う。
 圧迫と圧迫の間は、胸が元の高さに戻るまで十分に圧迫を解除する。

AEDが到着次第心電図の解析を行い必要に応じて電気ショックを加える。
 電源を入れ、胸に電極パッドを貼りつけた後、音声メッセージに従って使用する。その後、直ちに心肺蘇生を再開、2分間続ける。
 以後、心肺蘇生とAEDの使用を繰り返す。



じどうたいがいしきじよさいどうき
 ※1 AED(自動体外式除細動器)は、突然心停止状態に陥った場合に、心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す、誰にでも簡単に取り扱える医療機器です。

※2 新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、成人の心停止に対しては、胸骨圧迫とAEDのみを実施する。
 子どもの心停止は窒息や溺水など呼吸障害を原因とすることが多く、人工呼吸の必要性が比較的高いため、人工呼吸の講習を受け技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施する。

③ 出血

外出血、特に大出血を認められた場合は、直ちに止血を行う。

あり

ガーゼや清潔なハンカチなどで出血部位を強く圧迫する。

なし

骨折、ねんざ、痛みなど、その他の異常がないか観察する。

※上記の救護方法は[救急蘇生法の指針(2015)・市民用(監修:日本救急医療財団心肺蘇生法委員会)]「新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた市民による救急蘇生法について(指針)」を参考に作成したものです。実際に救護を行う際は、ケガ人の状況により適切な処置を行ってください。

気道確保・回復体位

気道確保 (頭部後屈あご先拳上法)

静かに額を押さえ、あご先を人差し指と中指の2本の指でゆっくり持ち上げて、呼吸の際の空気の通り道を確保する。



回復体位

あお向けにしたケガ人の横に座り、

- ①ケガ人の手前側の腕を開く
- ②反対側の肩と腰を持って、静かに引き起こし、体を横向きにする。
- ③両ひじを曲げ、上になった手を顔の下に入れ、口元が床面に向くようにする。
- ④姿勢を安定させるため、上になった足のひざを曲げ腹部に引き寄せる。以後、定期的に体の向きを変える。



小児・乳児の心肺蘇生

乳児：1歳未満／小児：1歳～15歳まで

胸骨圧迫

小児

1分間に
100回
以上



乳頭間の胸骨を片手で胸の厚さの1/3しずむ強さで押す。
(十分な体格がある場合は大人と同じく両手で押す)

乳児

1分間に
100回
以上



左右の乳頭を結んだ線の中央すぐ下を、指2本で胸の厚さの1/3しずむ強さで押す。

人工呼吸

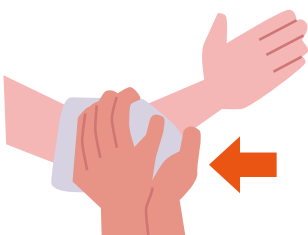


子どもの鼻をつまみ、口と口をつけて息をふきこむ。
(1分間に20回程度の速さで行う)



口と鼻を一緒におおい、強くなりすぎないように息をふきこむ。
(1分間に20回程度の速さで行う)

直接圧迫止血法 (止血法の基本)



出血部位にガーゼや清潔なハンカチ等を当て、その上から手で強く圧迫する。圧迫は止血するまで続ける(圧迫の継続が必要)。

二次災害の防止

負傷者の救護中、ほかの子どもの安全は確保できていますか？

- 自分以外の大人の見守りが可能ですか？
- 事故発生現場に近づかないように対処できていますか？
- 事故発生のストレス症状への心のフォローができていますか？

重大事故の場合は、いち早く、自分以外の大人の援助を求めましょう！

事故状況のメモ

事故状況メモ できる限りメモしておきましょう。

日時 _____ 月 _____ 日
_____ 時 _____ 分頃

場所 _____ 市区町村 _____ 丁目の
_____ あたりで

事故
内容 _____

ケガ人 _____ 名
_____ 病院名

損壊物 _____

対応 _____ ケガ人の救護
した事 _____ 動かした物

届出 _____ 警察署
警察 _____ 担当官

交通事故の場合は、警察に通報します。事故が発生した状況をなるべく詳細に記入してください。自分と負傷者、その他の人の位置関係、家具等との位置関係など、事故発生時の状況がわかるように書いてください。

目撃者の確認

自分以外に、事故等を目撃した人が居た場合は、後日のために連絡先等を確認してください。

目撃者1
名前 _____

住所 _____

電話番号 _____

目撃者2
名前 _____

住所 _____

電話番号 _____

事故発生時の位置関係を書いてください

